

平成 11 年度茨城県統計グラフコンクール募集に際して

茨城県企画部統計課

主任 永作 明義

1 デジタル時計とアナログ時計

今から 20 年程前のこと、高校の入学祝いに祖母からセイコーのデジタル腕時計を貰ったことがあります。当時は、デジタル時計が出回り始めた時期でまだ珍しく、とても誇らしい気分を味わったことを覚えています。或る日、購入した時計店で、知合いの店主の「これからは、腕時計はみなデジタルになっていくのでしょうか。」との間わず語りに、少しの寂寥感を感じとった私は、したり顔で「そんなことはありません。デジタルは情報量は多くても、アナログにはアナログの良さがあるはずです。例えば試験のときに、残り時間をデジタルでは引き算しなければなりません、アナログだと一目で分かります。」などと、デジタル時計を嵌めながらも、調子良くアナログの優位性を主張した記憶があります。その答えが的を射たのかどうかは別にして、今やデジタル時計は少数派。そういえば、車のメーターも、一時デジタルがブームの兆しを見せたものの、ユーザーからは「チラチラする」「頭の中で数字を読まないとスピードが分からない」などの意見もあり、やはり停滞気味のようです。

これらは、必ずしも情報の量は多く又正確であればあるほど良いという訳ではなく、多くのユーザーは、必要な情報をよりシンプルな形で取り入れたいと考えていることの一つの例といえるでしょう。

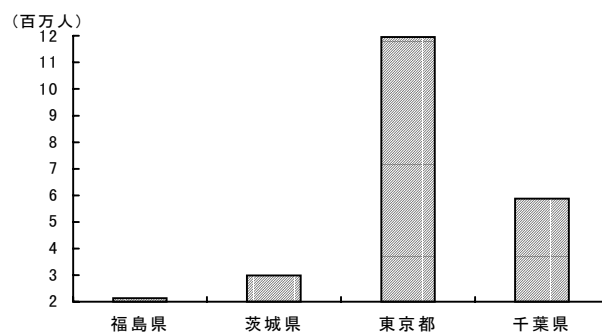
2 統計表と統計グラフ

事情は若干異なるかも知れませんが、統計表と統計グラフの関係も似たようなものではないでしょうか。

統計表は、1 頁に 400 から 500 の情報をデジタル（数字）で表示することができます。一つ一つの数字を読んでいくと、細かな変化や、僅かの違いを正確に比較することが可能となり、その上数字の加工にも適しています。専門家にとっては実に有用性の高い表現方法でもあり、統計表記の王道といえることができるでしょう。

一方、統計グラフは、誤解を恐れずにいうと情報量は乏しい上、情報の正確性においては、極端な話、折線グラフなど線には太さがあるわけで、線の上面で数値を読むか下面で読むかによって得られる情報は異なってくるなど、実にいい加減なものです。

さて、下のグラフは近県の人口を棒グラフで表したものですが、皆さんはこのグラフからどのようなイメージを受けるでしょうか。



「もうすぐ300万人を迎える茨城県とはいえ、まだまだ東京の10分の1!?!。でも、福島県の約10倍か!!。」アレレそんなはずはありませんよね。その通り。基線が0で始まっていないため、錯覚を生じてしまった例です。これはほんの一例ですが、このように、統計グラフは表現の仕方により誤解を与えることも多いため、作り手にも読み手にも注意が必要です。なお、このようなグラフは、日頃新聞などでもよく目にします。誤った理解により、職場で同僚の会話に一人首を傾げるなどということのないよう気を付けたいものです。

以上のように考えていくと、統計的にはどうも統計表の方が優れているようにも思えますが、統計グラフには視覚により経年変化や集団の比較を短時間で読み取れるという、統計表には無い長所があります。特に、忙しい現代人は短時間の内に広く多くの情報を欲しがることや、理解のし易さなどから、近年でも腕時計の例と同じように、統計グラフの方がより好まれているのが実態のようです。

結論としては、統計表・統計グラフそれぞれに特長があるということになります。我々統計関係者はユーザーのニーズを把握し、ケースバイケースの情報発信を心がけることが求められているようです。

3 統計グラフコンクール

さて、本稿のテーマは統計グラフコンクール。ここで、コンクールについて若干の紹介をしたいと思います。

例年上位の賞には、「うまい!」という一言の素晴らしい作品が多数選出されていますが、私共主催者としては、美術的巧拙はともかく、昨年は全体で18,408人という数の小・中学生が、1次データである統計表を分析・加工することにより統計グラフを作成したということに本来の意義を感じ

ます。この18,408人ですが、全小・中学生の6%になります。1人が1回しか参加しないとの仮定で計算すると、義務教育9年間の間には、実に54%もの子供たちが1度はコンクールに参加する計算になります。21世紀を担う子供達の多くが、コンクールを通じて、情報活用能力や広くりテラシーの向上を図っていることをとても心強く感じています。

次に、事業の息の長さも特徴的です。今年で50回を迎えるわけですが、そういえばこの間の、上司とその友人（それなりの年配の方とお見受けしましたが…）の会話。

「私のグループで統計グラフコンクールも担当しているんです。」「私も昔応募したことがありますよ。」「ああ、お子さんがですね。」「いいえ、私です。」・・・これで、50回という長い歴史を何となく理解できたような気がしました。

3点目は、このコンクール、小学校4年生以下の児童はグラフのデータを自ら収集することになっていますが、学校の先生に伺うと、夏休みに子供たちが街頭アンケートを実施しても、協力してくれる人が少ないそうです。チビッコ調査員が、汗を拭き拭き悪戦苦闘する姿を思い浮かべ胸を打たれると同時に、大人の統計調査員でも調査環境は似たり寄ったり。思わぬところで、効果的な調査拒否対策の必要性についても考えさせられました。

最後になりますが、本県の統計グラフコンクールは、応募点数で5年連続日本一を続けています。数ある県の事業の中でも、大ヒット商品のひとつです。お子さんたちはもとより、今年は是非皆様方からの応募も心待ちにしています。

（なお、先程引合いに出した人口のグラフは、統計グラフコンクールでは、落選となりますので念のため。）

平成11年度茨城県統計グラフコンクール募集要領

1 目的

統計思想の普及向上と統計教育の振興、統計の表現技術の研さんに資するため、県内の児童・生徒・学生及び一般県民から統計グラフを募集します。

2 主催

茨城県、茨城県教育委員会、茨城県統計協会

3 後援

茨城新聞社

4 応募資格

第1部 小学校1年生及び2年生の児童

第2部 小学校3年生及び4年生の児童

第3部 小学校5年生及び6年生の児童

第4部 中学校の生徒

第5部 高等学校以上の生徒、学生

第6部 一般

パソコン統計グラフの部 小学校の児童以上

5 課題

各部とも自由です。ただし、小学校4年生以下の児童については、児童が自ら観察又は調査した結果をグラフにしたものとします。

6 応募方法

(1) 用紙の大きさ

B2判仕上げ寸法 (72.8cm×51.5cm)

(2) 紙質・色彩

各部とも紙質・色彩(単色でも可)は自由ですが、裏面の板張り(パネル仕上げ)、表面のセロハンカバー等は認めません。

(3) 応募点数

制限しませんが、2枚以上にわたる「シリーズもの」は認めません。

(4) 合作の人数

1作品について5人以内とします。

(5) 送付先

① 第1部～第4部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)

中央地区(水戸教育事務所管内) 大子町立生瀬中学校

県北地区(県北教育事務所管内) 日立市立坂本中学校

県東地区(鹿行教育事務所管内) 北浦町立三和小学校

県南地区(県南教育事務所管内) 霞ヶ浦町立佐賀小学校

県西地区(県西教育事務所管内) 古河市立古河第七小学校

② 第5部、第6部、パソコン統計グラフの部(小・中学生以外)

県企画部統計課(水戸市笠原町978-6)

(6) 締切日

平成11年9月1日(水)

※なお、第1部～第4部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)の作品については、学校を通じて出品することになりますので各学校に問合せください。

7 応募上の注意

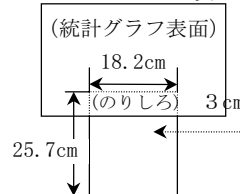
(1) 応募作品は、自分で創作したものに限りです。

(2) 応募作品の裏面に、住所、氏名、性別、年齢、職業を明記し、氏名には必ず「ふりがな」をつけること。ただし、小・中学校の児童生徒については、別紙様式により作品裏面右下に貼付すること。

(3) 自己の観察又は調査によった場合は、その記録を必ず別紙として貼付すること。

(4) 自己の観察又は調査によらずに、他からの資料を利用した場合は、その取材資料の出所を作品表面の適宜の位置に明記するとともに、統計表(取材資料)を別紙として貼付すること。

(5) 観察・調査の記録及び統計表(取材資料)はB5判(25.7cm×18.2cm)の用紙に書き、作品の裏面下部に3cmの「のりしろ」で次のように貼付すること。



例：用紙を横長に用いた場合
(縦長に用いてもよい)

統計表及び資料
(自己の観察・調査によった場合は
その記録)

(6) パソコン統計グラフについては、使用した機種・ソフト・プリンター名を作品の裏面に明記して下さい。

(7) その他
別紙「統計グラフ作成上の留意点」(省略)を参考にしてください。

8 作品の審査

(1) 審査員

学識経験者、教職員及び行政機関等の職員

(2) 審査方法

① 地区審査

第1部～第4部及びパソコン統計グラフの部(小・中学生)の作品について地区(各教育事務所の地域区分)単位で審査します。

② 県審査

地区審査で入選した作品と第5部、第6部及びパソコン統計グラフの部(小・中学生以外)について審査します。

9 入選区分及び賞

(1) 入選

① 知事賞(各部1点)

② 県議会議長賞(各部1点)

③ 県教育長賞

(1～4部、パソコン統計グラフの部[小・中学生]各2点)

④ 茨城新聞社長賞

(1～4部、パソコン統計グラフの部[小・中学生]各1点)

⑤ 県統計協会総裁賞(各部5点)

⑥ 県統計協会会長賞(各部10点)

(2) その他の賞

① 県企画部長賞(県審査会出品作品のうち、入選以外の作品)

② 統計教育研究部長賞

(1～4部、パソコン統計グラフの部[小・中学生]各10点)

③ 努力賞(上記以外の応募作品)

(3) 学校に対する賞

① 優秀校賞(小学校10校、中学校5校)

② 奨励校賞(〃25校、〃5校)

10 入選作品の発表

入選作品(上記9(1))は平成11年9月下旬に公表し、第1部～第4部、パソコン統計グラフの部(小・中学生)については、各地区の統計教育研究部長及び所属学校長に、第5部・第6部及びパソコン統計グラフの部(小・中学生以外)については、本人あて通知します。

11 全国コンクールへの出品

入選作品中、特に優秀と認められる作品を第1部～第4部については、各部8点以内、第5部～パソコン統計グラフの部については、各部5点以内で全国コンクールへ出品します。

12 表彰

入選作品(上記9(1))及び学校に対する賞(9(3))は、茨城県統計大会(平成11年11月30日、於水戸市「県民文化センター」)で表彰し、その他の賞(9(2))は、別途表彰します。

13 作品展示

茨城県統計大会会場で入選作品(上記9(1))を展示し、巡回展示会場(県内各小・中学校)等で県審査会審査作品(9(1)及び9(2)①)を展示します。

14 応募作品の帰属

応募作品のうち、県審査会審査作品(上記9(1)及び9(2)①)の著作権は茨城県に帰属します。

15 応募等の問合せ先

茨城県企画部統計課普及情報グループ(☎029-301-2637)